とうかい



2026年9月16日　NO.695

「御同朋の社会をめざす運動」東海教区委員会　広報部
〒460-0018　名古屋市中区門前町1番23号
東海教区教務所内
TEL 052-321-0028　FAX 052-332-4097
e-mail　info@tokai-hongwanji.net

いま、必要とされる支援を

～令和８年熊本地震について～

令和８年熊本地震により被災された皆さまに、心よりお見舞い申しあげます。被災地を思うとき、「何か力になりたい」という気持ちを持つことは大切です。一方支援活動は私たちの思いだけで行うのではなく、いま現地では何が必要とされているのかを確かめながら進めることも大切です。

今のところ現地では、ボランティアの受入体制や宿泊環境がまだ十分に整っていないと伝えられています。従って東海教区では、現段階では義援金・支援金による支援を中心とした取り組みで協力していく方針です。また、仮設住宅入居者に生活用品を届ける教区内の取り組みなど、信頼と実績のある支援活動についても情報を共有するなど協力してまいります。

この度の地震では、本願寺派寺院にも甚大な被害が生じています。調査は継続中ですが、現在のところ７教区156カ寺で何らかの被害が確認されており、本堂が倒壊するなどの大きな被害を受けた寺院もあります。

このような状況を踏まえ、東海教区では当面、次ページのような支援を中心に取り組みます。「支援する側がしたいこと」ではなく、「いま現地で必要とされていること」を大切にしながら、教区としてできる支援を進めてまいります。ご理解とご協力をお願い申し上げます。

Contents

熊本地震への支援　P1.2
住職総参拝　P3
サマーキャンプ　P4
教区行事活動報告　P5
教区委員会紹介　P6
こころばなし　P7
声　書棚　編集後記　P8

令和８年熊本地震への東海教区の支援方針

１，義援金・支援金による支援

まずは義援金・支援金による支援を呼びかけます。寄付先の一つとして、宗派でもたすけあい運動募金「令和８年熊本地震災害義援金」を受け付けています。

・受付口座番号：郵便振替　０１０　００－４－６９９５　７　・加入者名：たすけあい募金

（本願寺派ホームページなどもご確認ください）

２，生活用品セットを届ける取り組み

大阪教区の本派僧侶有志を中心とした「震災支援を続ける会」では、仮設住宅入居者へ生活用品セットを届ける準備が進められています。東海教区の「震災支援ネットワーク東海」もこの活動に協同しており、教区としても、信頼と実績のあるこの支援活動に協力してまいります。

震災支援を続ける会
facebook

３，人的支援について

現地では、ボランティアの受入体制や宿泊環境などが十分に整っているとは言えない状況にあるため、現時点で東海教区としてボランティアの募集・取りまとめを行う予定はありません。ただし、各団体等において個別に人的支援を計画される場合には、教区としても可能な範囲で協力してまいります。

今後、現地の受入体制等が整った段階で、引き続き支援を必要としている能登地域への支援状況も踏まえながら、人的支援のあり方について検討してまいります。

熊本教区現地緊急災害対策本部に出向して
東海教区教務所職員　安藤昭英

8月17日～19日に宗派からの辞令により、熊本教区現地緊急災害対策本部へ出向してまいりました。滞在3日間で被災地に行くことができたのは最終日のみでしたが、その寺院では庫裏が傾いており、食器、窓ガラスの破損等が見受けられました。

これでも地域によっては軽度と判断されており、連日テレビで報道されている地域との差を感じました。支援物資については、みなさまが想像される物資(カップ麺、白ご飯、水等)については滞在期間中は、整っており、不足していたものはキッチンペーパー・トイレットペーパーでした。

食料よりも日用品が全体として不足している印象を受けました。

滞在中も震度2程度の揺れを感じており、まだまだ油断できない状況にあります。

今後の支援物資、ボランティア希望の方については浄土真宗本願寺派令和8年熊本地震支援センターのHPをご覧ください。







2026 7

第一回住職総参拝

7月22日から23日にかけて西本願寺にて第一回住職総参拝が開催されました。
「ともにお念仏申す身となる」のスローガンのもと、宗門の基本理念の実現に向けた歩みを進めていく機縁とすべく実施されました。

第一回は全国の宗務機関職員を対象に実施されました。その様子をご紹介いたします。



開会式

開会式は阿弥陀堂にて行われ、約200名もの方々が一堂に会しました。大きなお堂に多くの方が集まり、ともにお念仏をお称えする光景は非常に迫力があり、普段とはまた違った感動を覚えました。
参加された一人ひとりが同じ場に身を置き、ともにお念仏をお称えすることで、大きな一体感が生まれていたように感じます。

講義

講義を通じて、教義を改めて確認することができました。
基礎的な真宗・仏教教義から実践的な内容まで、講義の幅が広く有意義な時間でした。
これまで大切に受け継がれてきた教えを守るだけではなく、現代を生きる方々にどのように伝えていくのかということについて、改めて考える機会となりました。



後堂見学



普段立ち入ることができない場所を見学する貴重な機会となりました。
本山で使用されているものを実際に見ることができ、日ごろの活動では得られない新たな発見につながりました。
なお、後堂は撮影禁止であったため、写真を撮影することはできませんでしたが、実際に足を運び、普段見ることができない場所や物に触れることで、大きな刺激を受けました。

～参加者の声～

東海教区教務所職員 曽我寛祐さん



普段の業務では関わることの少ないの方々と交流することができたことも、大きな学びの一つでした。それぞれが置かれている環境や担当している業務には違いがあるものの、互いに学び合いながら成長したいと思うきっかけになりました。

東海教区教務所職員 風間大慈さん



自分が日頃関わっている以上に、全国にはお念仏をともにする多くの方々がいらっしゃるのだということに気づかされました。そのご縁の中に自分も身を置いていることのありがたさを感じる機会となりました。今後も宗務に励んでいきたいと思います。

開催レポート

ほとけの子どもサマーキャンプ！ in四日市少年自然の家

2026年　8月　27日(木)
28日(金)

三重県の四日市少年自然の家で、「ほとけの子どもサマーキャンプ」が開催されました。
外部キャンプ場の開催は、2019年以来7年ぶりとなりました。

水沢の豊かな自然の道を進み、少年自然の家に、子どもたち31人、スタッフ21人が集まります。右を見ても、左を見ても森、山！どんなキャンプになるかワクワクです。





開会式
みんなの「らいはいのうた」のお勤めが、響きます。



トレジャーハンティングウォークラリー。
四日市の山の中を点検！急な斜面も子どもたちは元気に進んでいきます。おや…班付きスタッフの様子が…。



夕食作り
みんなでカレー作り。お米を研いで飯盒炊飯！野菜の皮を剥いて…玉ねぎの皮は、皮むき器では剥けません。

ミッションをクリア！
利きスポーツドリンクは、なかなか難しい。





カレーおいしいね。みんな超大盛！

キャンプ二日目！
朝の集い





キャンプの醍醐味！キャンプファイヤー！



ハスワーク
雷雨の影響でカヤック体験は変更・・・
助っ人三宅先生による、ハスワーク！
みんな上手にできたかな。



朝食は毎年恒例
牛乳パックホットドッグ！



みんなで焼きそばを食べて、閉会式。
楽しかったですね。また来年！
ありがとうございました！

東海教区少年連盟では、毎年サマーキャンプを開催しています。
単位会を持たない寺院さまも、お近くの子どもたちをお誘いいただき、ぜひご参加くださいませ。
また、この度ご協力くださいました皆様、ありがとうございました。来年もぜひご参加ください！

同朋部　第７期同朋運動連続講座「現地学習会」に参加して

額田組　松林寺　三浦義泰さん

第 7 期同朋運動連続講座の現地学習会として、奈良県御所市の水平社博物館を見学し、水平社創立に深く関わりのある西光寺のご住職からお話を伺いました。

水平社運動とは、被差別部落の人々が自らの力によって差別をなくし、人間の尊厳を守ることを目指した自主的な人権解放運動です。その歩みには浄土真宗が関わっており、真宗の御教えとも深く結びついています。真宗僧侶にとって水平社運動を学ぶことは重要な課題であると、改めて感じました。

私自身、これまでは教えられた範囲でしか理解しておらず、今回の学習会は自ら現地に立って学ぶ貴重な機会となりました。

特に心に残ったのは、西光寺ご住職から伺った、水平社創立の中心人物、西光万吉の「私たちが差別から助かるだけでなく、差別をしてしまう哀れな人々を救いたい」という言葉です。差別される側だけでなく、差別する側をも見つめた言葉に深い感銘を受けました。



差別問題をあえて掘り起こすべきではないという意見もあります。しかし、親鸞聖人が私たちを「極重の悪人」と示されたように、学ばなければ私たちは無自覚のうちに差別する側にもなり得ます。差別を忘れ、蓋をするのではなく、先人たちが積み重ねてこられたご苦労を学び続けることこそが、差別をなくす歩みにつながるのだと感じました。

寺族青年連盟「寺 HacQs～そこまで聞いて委員会～」に参加して

鈴鹿組　西方寺　伊藤禎顕さん

今回の寺族青年連盟研修会では、「適切な寺院運営を行うための判断軸」をテーマに、税理士法人ゆびすいの矢部恭章先生を講師におを開催しました。

研修前にはアンケートで日頃の疑問や悩みを募り、その声をもとに資料をご準備いただきました。当日は匿名で質問できる「Slido」も活用。東海教区だけでなく岐阜教区や他宗派、さらに「宗教法人の税務を学びたい」と現役の税理士さんも参加され、立場を越えて共に学ぶ機会となりました。

当日は「適切な寺院経営の為に知っておかなければいけないこと～宗教法人の税務リスクと、墓地運営をはじめとする収益事業の境界線」と題してお話しいただきました。司会をしながら会場を見渡すと、皆さん熱心に耳を傾け、質問コーナーでも次々と質問が寄せられ、予定時間を延長するほどの研修となりました。

事前アンケートへの回答、研修資料、当日・事後の質問回答集も、まるで一冊の「お寺の税務の本」のような充実ぶりで、

これから何度も見返したい資料です。研修内容や資料が気になる方は、ぜひ別院の神田さんまでお問い合わせください。



お寺をお預かりする私たちは、日々の法務や寺院運営の中で、時に様々な判断を迫られ、一人で悩むこともあるかもしれません。そんな時、共に学び、悩みを共有できる仲間と出会えることも、寺族青年連盟の大切な役割の一つなのではないかと、今回の研修を通して感じました。今後は、普段は他の仕事に就いている方など、平日の参加が難しい方にも参加しやすい開催日時を考えていきたいと思います。「こんな研修だったら参加したい」「こんなことをみんなで学んでみたい」といった声も、ぜひお聞かせください。

「御同朋の社会をめざす運動」東海教区委員会ってどんな組織?

おしえて
最終弾

今まで「御同朋の社会をめざす運動」東海教区委員会の各団体に、それぞれお話をうかがってきた最終弾だよ!活動の中で抱えている課題も様々だね。代表のみなさま、ご回答ありがとうございました。



仏教婦人会連盟

●具体的な活動・予定●

1.総会・研修会:2026年6月19日　総会のあと講師による研修会
　今年度講師　安芸教区　伝道集団アサカラザルさん
　「漫才法話 - 仏事あるある」
2.仏教婦人「御同朋の社会をめざす運動」一泊研修会
　毎年講師をお招きし、一泊研修会を実施しています
　今年度は 2027 年 1 月に実施予定です。
　昨年度まで鳥羽市・蒲郡市と交互に開催していましたが、今年度は
　名古屋別院を研修会会場に、名古屋市内にて宿泊を予定しています。
3.その他:名古屋別院報恩講参拝研修、金城六華園支援



委員長
安田和代

●活動の課題●

- 寺院の婦人会および婦人会会員の減少
- 若い方々にも参加していただくにはどのようにお誘いしたら良いか

●読者へのメッセージ

仏教婦人会総連盟スローガン「念仏に生かされるよろこびを行動へ」をもとに、皆さまとともに活動をすすめてまいりたいと思います。

門徒総代会

●具体的な活動・予定●

門徒総代として自ら聞法に励み、念仏者の自覚のもと、寺門の護持発展に寄与することを活動方針としています。

理事会、常任理事会、総会研修会、一泊研修会等を開催し、「御同朋の社会をめざす運動」東海教区委員会、名古屋別院奉仕団、第2連区門徒総代会研修会等への参加を計画しております。



会長
近藤吉男

●活動の課題●

東海教区門徒総代会が結成され2026年に50周年を迎えます。2027年度には50周年記念大会を開催の予定です。総会・研修会への参加者が減少しております。50周年記念大会には是非とも40周年記念大会を上回るご参加を切にお願い申し上げます。

寺院女性連盟

●具体的な活動・予定●

・連盟会報誌「花」の発行
・昨年度は、研修旅行で、真宗高田派本山専修寺の参拝と、カメヤマローソクタウンの見学を行い、親睦を深めました。
・今年度は、総会後、仏教婦人会連盟と合同の研修会で伝道集団アサカラザルさんをご講師に迎え、漫才法話をしていただきました。



理事長
垂髪絵美

●活動の課題●

オンラインを利用しての総会研修会等で、活動しやすい範囲で活動を続けております。

『お念仏とともに歩む平和への道』

加藤 学（桑名組善徳寺）

私たちの宗門では、戦争によって尊い命を失われたすべての方々を追悼し、悲惨な戦争を再び繰り返してはならないという平和への決意を確認するため、1981(昭和56)年から毎年 9 月 18 日に、東京・国立千鳥ヶ淵戦没者墓苑において、「全戦没者追悼法要」を勤修しています。そこで、改めてお念仏をいただく私たちにとって平和とは何であるか、お釈迦様と親鸞聖人のお言葉に尋ねてみたいと思います。

「すべての者は暴力におびえる。すべての（生きもの）にとって生命は愛しい。己が身にひきくらべて、殺してはならぬ。殺さしめてはならぬ。」

（『ダンマパダ』　130 偈）

お釈迦様のこの言葉から仏教が平和というものをどのように捉えているのか考えると、私が行うことを含めすべての暴力を許さないとともに、暴力を行使せざるを得ない状況に追い込むことをも厳しく戒めていることが分かります。武力侵攻や先制攻撃は決して許される行為ではありません。ただ、現在の状況に至るまでの経過への理解を抜きに、特定の国や為政者だけに悪のレッテルを貼ろうとも根本的な解決には近づかないのではないかと思えてなりません。

また、暴力を使うような状況に追い込むことを戒める言葉の裏側には、仏教では私たちが時に暴力を使うことさえあると見ていることが分かります。

親鸞聖人の言行録である『歎異抄』には

「わがこころのよくてころさぬにはあらず。また害せじとおもふとも、百人・千人をころすこともあるべし。」「さるべき業縁のもよほさば、いかなるふるまひもすべし」（註釈版聖典 843・844 頁）

と、私たちは自分が考えたように必ず行動できる訳ではなく、縁が整ってしまえば考えてもいなかった行動さえとってしまうことを示しています。しかし、この言葉は条件次第で何でもしてしまうのだと、自分の行為を正当化し開き直るためのものではありません。阿弥陀様の眼差しにより知らされた自身の姿をあらわされた言葉であり、何をしてしまうか分からない者同士だからこそ、争いを起こさないために何をすべきか、共に考えて行動する必要性をお示し下さっているように思えます。

時に人は自分のことを「私は正しく、間違いを犯さない」と考えてしまいますが、その時こそ「私を邪魔する間違ったもの」をどこまでも攻撃してしまうのかもしれません。だとするならば、自分の心の弱さ、至らなさを知っているからこそ歩んでいける「愚か者の平和への道」を多くの方とともに歩んでまいりたいと思います。



～声～

『夏休みの宿題』

私には今年中学生になった娘がいる。

中学校の夏休みの宿題は、小学校と違い、各教科の先生から宿題がだされる。正直けっこうな分量に驚いた。

宿題には、必須のものと、自由に選べるものがある。なかでも、理科の先生からの宿題についてのメッセージがなんとなく心に止まった。

「長い夏休み、一度でいいからプラネタリウムや科学館に行ってみてはどうでしょう」

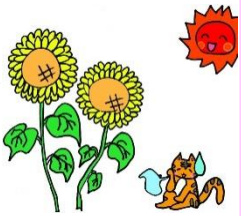
「証拠になるチケットなどを必ずレポートに貼ること」

これは、選べる系だからスルーしても良いものだ。しかし、先生の切実な願いが伝わってくるようで、家族旅行に無理やり組み込んで、滋賀県立琵琶湖博物館にいくことにした。

夏休みで疲れ気味の私にとっては、少々面倒臭い日程だったが「一度でいいから」という言葉に動かされてしまったのだから仕方ない。博物館では琵琶湖に住む魚や水鳥を見学することができた。琵琶湖の上を優雅に飛び回る水鳥をみては、「自由でうらやましい」と思っていたが、どうやらそうでもないらしい。

琵琶湖に住む生き物たちは、みなそれぞれに役割を担っていて、関わり合いのなかで懸命に生きている。そんな当たり前のようなことが、ぼーっと生きていると、忘れがちだ。

証拠になるチケットともう一踏んばりする力をもらって、家族と一緒に帰路についた。



～書棚～

『歩く　マジで人生が変わる習慣』　著 池田光史　　出版社 ニューズピックス

本書は「歩く」という、あまりにも当たり前の行為を、さまざまな角度から見直していく一冊です。健康や運動としての効用だけでなく、歩くことが脳や心に与える影響、姿勢や身体の使い方、さらには足の構造や靴の選び方まで、「歩く」にまつわる幅広い話題が紹介されています。

私は趣味でマラソンを走ります。多い月には600km ほど走り、40km のロング走をすることもあります。これだけ走っていると、疲れるのは「脚」だけではありません。靴の中で指が当たったり、爪が痛くなったり、同じ場所に負担がかかったりと、自分の「足の形」そのものを意識させられます。そのため、本書の中でも特に興味深かったのが、足と靴について書かれた部分でした。自分の足に合う靴とは何か。普段何気なく履いている靴が、歩き方や身体にどのような影響を与えているのか。

ランニングシューズにはこだわってきたつもりでしたが、日常の靴については案外無頓着だったことにも気づかされました。

走ることには熱心なのに、考えてみれば「歩くこと」についてはほとんど考えたことがありません。毎日繰り返していることだからこそ、一度立ち止まって

――いや、歩きながら――見直してみるのも面白いかもしれません。



～編集後記～

名古屋別院のご輪番が交代されました。今回同封の教区報でもお知らせしております。佐藤浩紹前ご輪番には、これまでさまざまな場面でお世話になりました。改めて、心より御礼申しあげます。ありがとうございました。